

平成 24 年 6 月 5 日  
東京都病害虫防除所

## 平成 24 年度 病害虫発生予察情報 注意報 第 1 号

---

病害虫名： 果樹カメムシ類  
(チャバネアオカメムシ及びクサギカメムシ)

対象作物： ナシ、ブドウ 等

---

### 1. 注意報の内容

- (1) 対象地域 都内全域
- (2) 発生量 多

### 2. 注意報発令の根拠

- (1) 東京都福祉保健局が発表した2011年におけるスギ及びヒノキの飛散花粉数は、1985年の調査開始以降 2 番目に多い。4～7月までのチャバネアオカメムシ予察灯誘殺数(大部分が越冬成虫)と前年のスギ及びヒノキの飛散花粉数との間には正の相関があるため(沼沢ら、2007)、越冬成虫数は多いと推定される。
- (2) チャバネアオカメムシのフェロモントラップ誘殺数は、5月1～3半旬では平均10.2頭と平年並で推移した。しかし、同月4半旬は67.6頭と急増し、多発年であった2006年より多くなった。5半旬及び6半旬は平年の3.5倍及び4.5倍で推移した(図1)。
- (3) 5月1～5半旬における予察灯誘殺数は、チャバネアオカメムシは19頭で平年の2.9倍と多く、クサギカメムシは平年並であった。
- (4) 5月のサクラ果実への飛来数は、チャバネアオカメムシが4.9頭、クサギカメムシが1.6頭と、いずれの種類も2007年の調査開始以降最も多かった。特にチャバネアオカメムシの増加が顕著であった(図2)。

### 3. 防除対策

今後は春に結実したサクラやクワなどの実が急激に減少するため、果樹カメムシ類が果樹園に飛来する危険性が高まる。

- (1) 早期に袋がけを行う。果実が肥大して袋に接するまでは効果が高い。
- (2) 多目的防災網(目合9mm、クロス入り)を展開できる園はできるだけ早く設置する。
- (3) 果樹園への飛来が認められたら、表1を参照して薬剤を散布する。

### 4. 参考文献

沼沢ら(2007) 関東東山病害虫研究会報 54:173-176

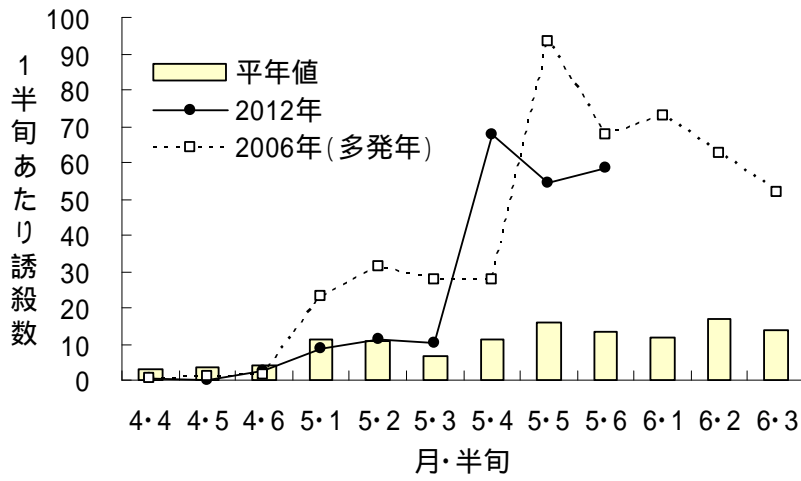


図 1 . チャバネアオカメムシのフェロモントラップ誘殺数の推移(立川市)

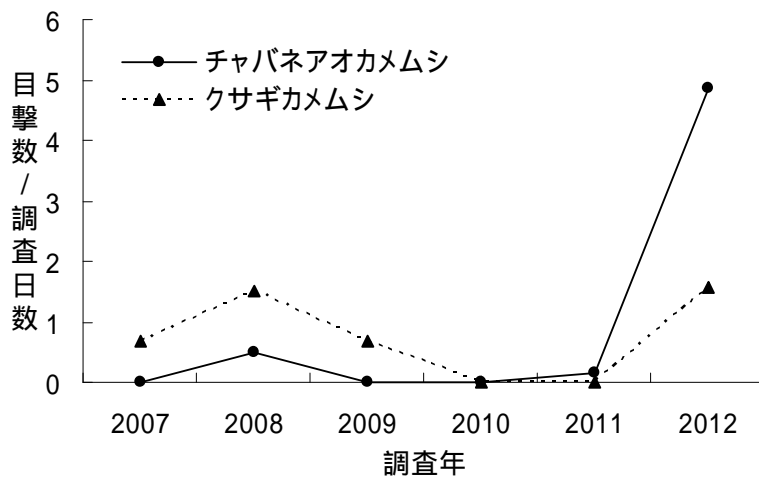


図 2 . 5 月のサクラにおける果樹カメムシ類目撃数(立川市)

表 1 . 主な防除薬剤

薬 剤 名	薬剤の 系統	使用時期 (日)	使用回数	ナシ	ブドウ
アドマイヤー顆粒水和剤	ネニコチノイド	3	2		
アクタラ顆粒水溶剤	ネニコチノイド	1	3		
アルバリン顆粒水溶剤	ネニコチノイド	1	3		
スタークル顆粒水溶剤	ネニコチノイド	1	3		
ダントツ水溶剤	ネニコチノイド	1	3		
ベストガード水溶剤	ネニコチノイド	14	3		
モスピラン顆粒水溶剤	ネニコチノイド	1	3		
スプラサイド水和剤	有機リン	7	3	有袋	
		45	2	無袋	
スミチオン水和剤40	有機リン	14	6	有袋	
		21	6	無袋	
ア - デント水和剤	ピレスロイド	7	3		
アグロスリン水和剤	ピレスロイド	1	3		
アディオン乳剤	ピレスロイド	1	2		
スカウトフロアブル	ピレスロイド	1	5		
テルスターフロアブル	ピレスロイド	1	2		
マブリック水和剤20	ピレスロイド	30	2		
ロディー水和剤	ピレスロイド	1	2		
MR. ジョーカー水和剤	ピレスロイド	14	2		

注 1 ) 農薬を使用する際は、ラベルの記載事項を確認する。

注 2 ) 桑園の近くでは使用しない。

注 3 ) ピレスロイド剤は、ハダニ類の発生を助長することがあるので注意して使用する。

.....  
 防除所ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/tokyo>  
 今後の予察情報にご注意下さい。  
 E-mailアドレス S0200303@section.metro.tokyo.jp